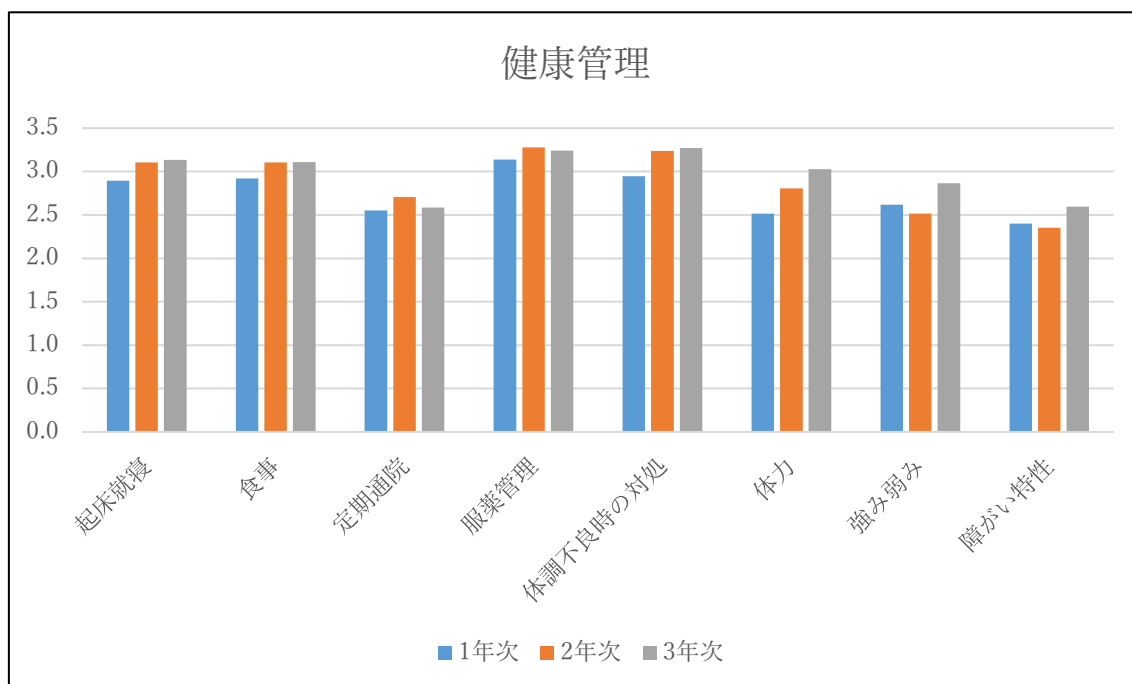


(2) 令和2年度入学の3年間の得点の推移の比較

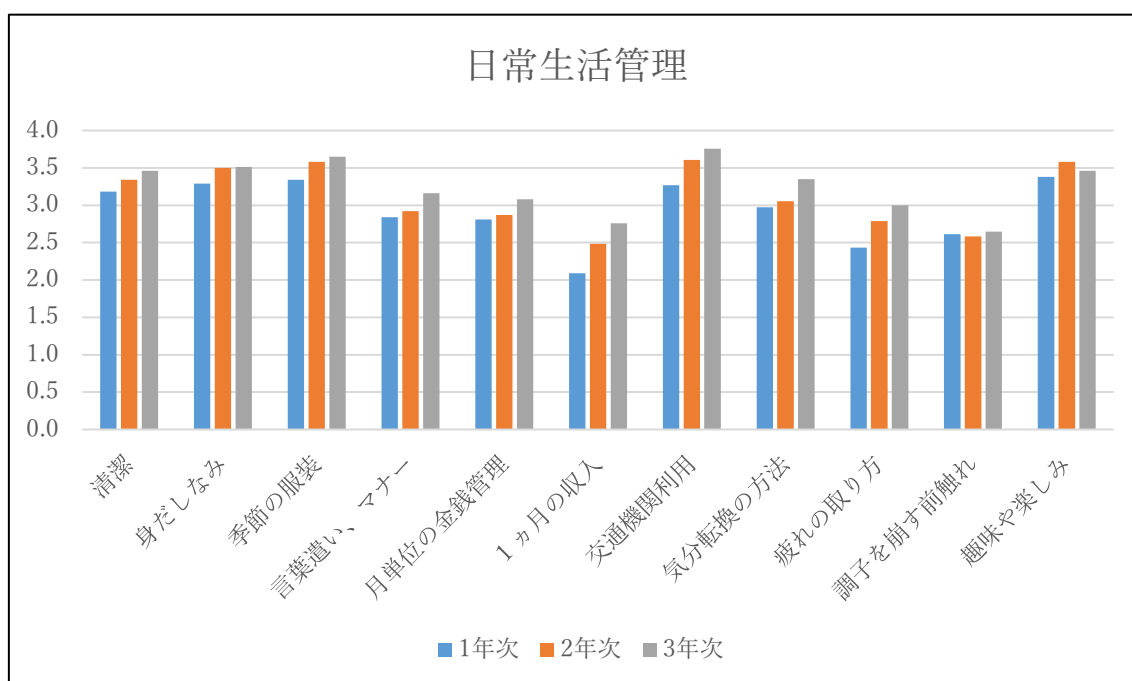
【健康管理】



3年間通じての平均点が3点以上の項目：「服薬管理」

3年間通じての平均点が1～2点台の項目：「定期通院」、「強み弱み」、「障がい特性」

【日常生活管理】



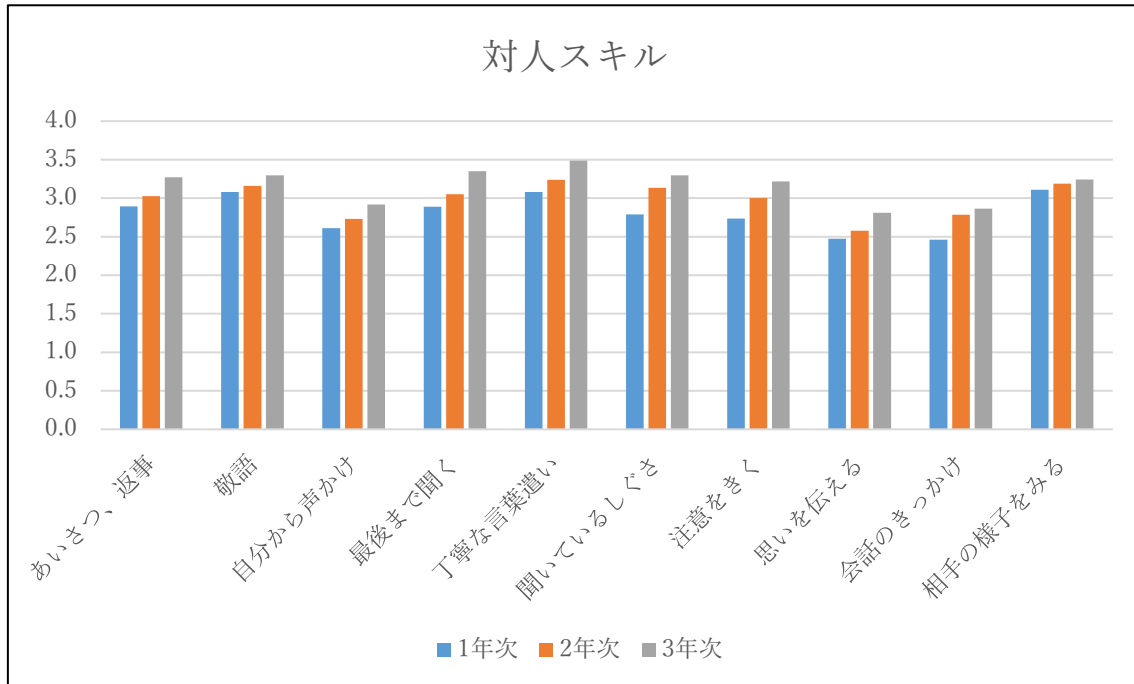
3年間通じての平均点が3点以上の項目

「清潔」、「身だしなみ」、「季節の服装」、「交通機関利用」、「趣味や楽しみ」

3年間通じての平均点が1～2点台の項目

「1ヵ月の収入」、「疲れの取り方」、「調子を崩す前触れ」

【対人スキル】



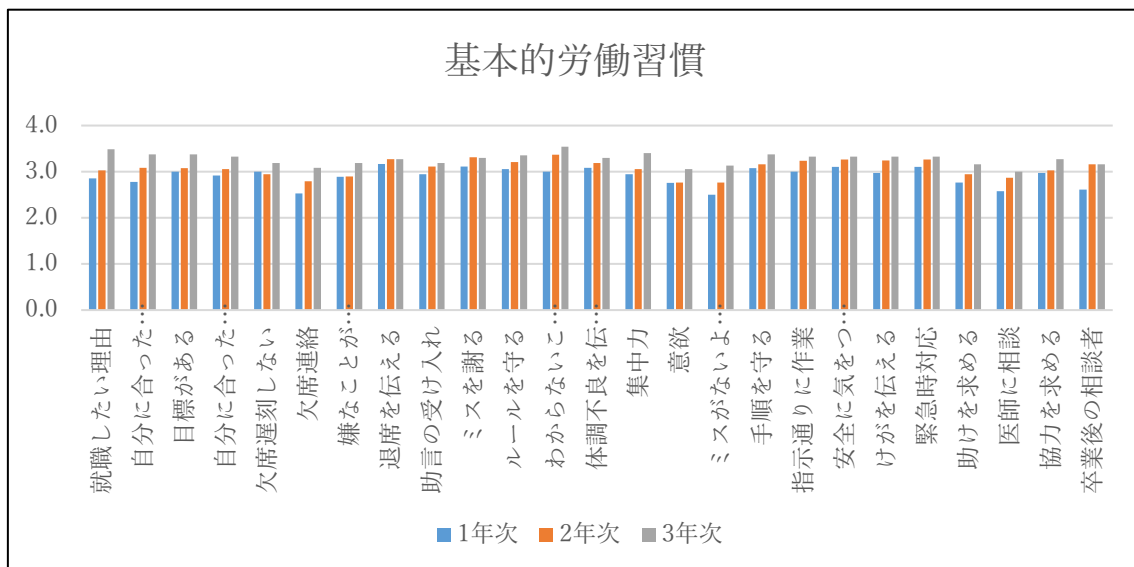
3年間通じての平均点が3点以上の項目

「敬語」、「丁寧な言葉遣い」、「相手の様子を見る」

3年間通じての平均点が1～2点台の項目

「自分から声かけ」、「思いを伝える」、「会話のきっかけ」

【基本的労働習慣】

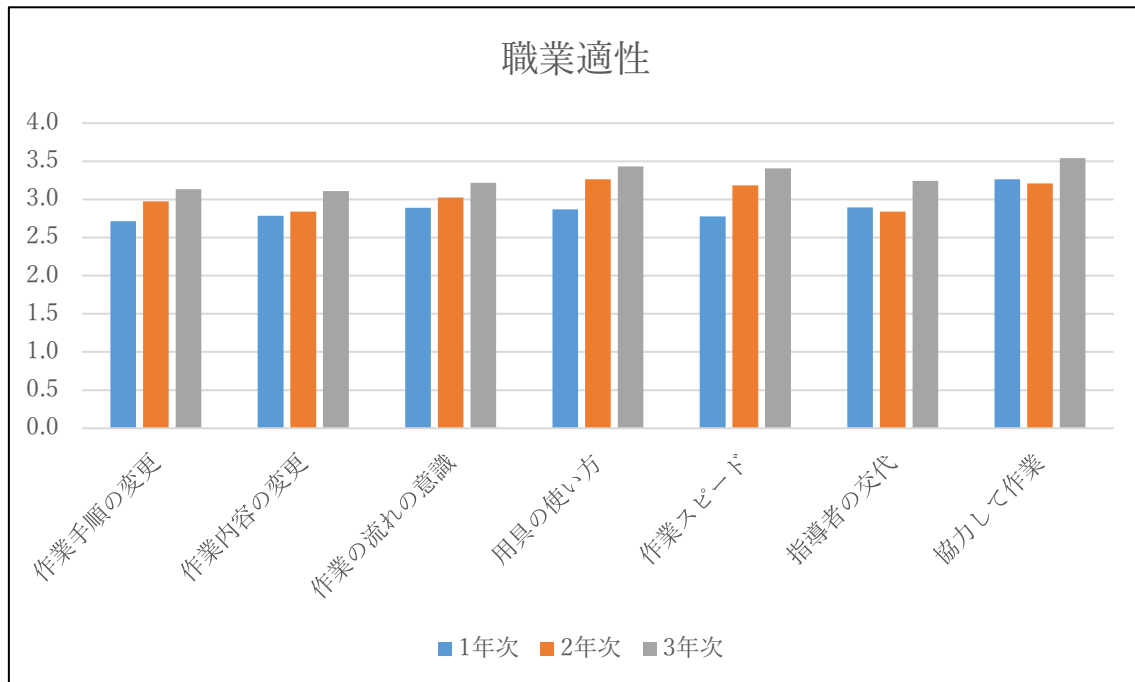


3年間通じての平均点が3点以上の項目

「目標がある」、「ルールを守る」、「わからないことを聞く」、「体調不良を伝える」、
「手順を守る」、「指示通りに作業」、「安全に気をつける」、「けがを伝える」、「緊急時
対応」、「協力を求める」

3年間通じての平均点が1～2点台の項目：無し

【職業適性】



3年間通じての平均点が3点以上の項目：「協力して作業」

3年間の平均点が1～2点台の項目：無し

【考察】

5領域のほとんどの項目で、学年が進行するごとに平均点が上がっている。特に、生徒が、日々の生活の中で繰り返し経験のできる項目については、着実に得点が伸びており、実際に経験することで定着していくことが分かる。これは、直接指導が難しい「起床就寝」や「食事」、「交通機関利用」などについても、生徒が日々、取り組むことで同様のことが言える。

各領域を見ると、「基本的労働習慣」、「職業適性」の各項目では、2年次までは2点台にとどまっていたものが大きく得点を伸ばしているものが多い。これは、多くの生徒が、これまでの学習の積み上げに加え、3年生となり就労に向けたより実践的な取り組みを経験し、内定を手にしたことで、自分自身に自信を持ち、「ふつうにできる」と評価した結果ではないかと予想する。

上記のことから、本校の教育を受けることは、社会人としての基礎的な能力を身につけることにつながっていると考える。

しかし、その一方で、3年間の教育を通して、得点の伸びにくい項目にも着目しておきたい。その項目は、【健康管理】「定期通院」、「強み弱み」、「障がい特性」、【日常生活管理】「1か月の収入」、「調子を崩す前触れ」、【対人スキル】「自分から声かけ」、「思いを伝える」、「会話のきっかけ」となる。中でも、「定期通院」、「1か月の収入」、「調子を崩す前触れ」については、現時点では未経験だったり、経験が少なかったりすることで、生徒が自己評価できず、得点が低くなっていると思われる。残りの項目の「強み弱み」、「障がい特性」、「自分から声かけ」、「思いを伝える」、「会話のきっかけ」については、今年度、昨年度の3学年比較の検証結果と同じ傾向が見られている。

自分自身の「強みや弱み」、「障がい特性」を理解することは、起こりうる対人ストレス等による病気の予防や必要とする支援や配慮を明確にすることにつながる。そして、そうした「思いを伝える」ことができると、周囲の理解や協力が得られ、就労をより長く継続できると考える。また、職場における対人関係は非常に重要なものであり、「会話のきっかけ」を作ったり、「自分から声かけ」したりと受け身の姿勢ではなく、主体性を持って行動することも求められる。知的障がいや発達障がいがあることでの難しさはあるが、環境を整えやすい学校生活の中だからこそ、上記の課題を改善・克服するための取り組みについて考える必要がある。